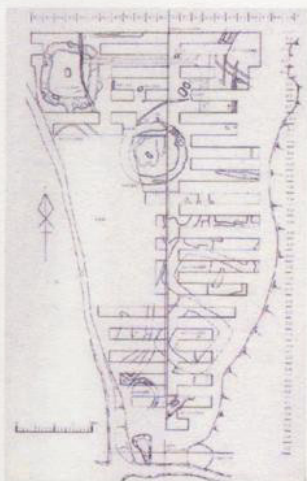
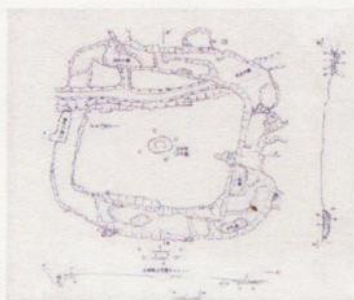


名取の方形周溝墓 と円形周溝墓

I-7-①



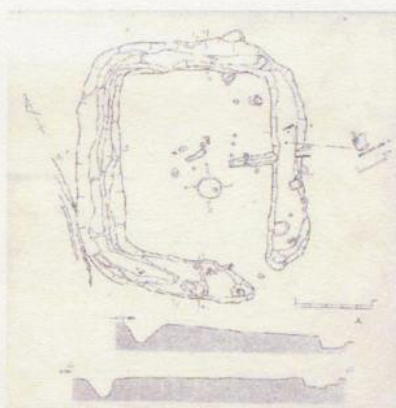
I-7-②-a



I-7-②-b



I-7-②-c



I-7-②-d



I-7-②-e

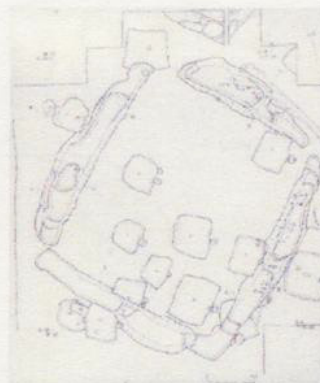


I-7-②-f

今熊野遺跡において、昭和46年東北地方で最初に発見された11基の方形周溝墓の中には、一辺の長さが21~23mという大型のものも存在します。このことは、この地区が弥生時代の終わりころから古墳時代に移る時期に、西日本であらわれた墓制・葬制の風習を受け入れるほど階級社会が進展し、指導力をもつ有力者が大きく成長したことを示しています。

今熊野遺跡のほかに、五郎市遺跡から方形周溝墓が7基と円形周溝墓が1基、西野田遺跡からは円形周溝墓2基が発見されています。

I-7-③-a



I-7-③-b



I-7-③-c



I-7-③-d



I-7-③-e